

第2回角田市長期総合計画審議会会議報告書

1. 日 時 令和8年3月17日（火）午後1時30分から午後3時30分まで
2. 場 所 角田市役所301会議室
3. 出席者
 - (1) 角田市長期総合計画審議会委員21名
(別紙名簿のとおり)
 - (2) 角田市第6次長期総合計画に係る事務局員14名
(別紙名簿のとおり)
 - (3) 角田市第6次長期総合計画策定支援業務委託業者
七十七リサーチ&コンサルティング株式会社
調査研究部 副部長 主席研究員 木村 暢男
調査研究部 上級研究員 片桐 拓也
調査研究部 研究員 浅野 恵一

4. 内容（概要）

1 開会

2 会長あいさつ

年度末のお忙しい中、第2回長期総合計画審議会に参加していただき、誠にありがとうございます。

本日は、阿武隈急行で来ましたが、沿線では梅の花が咲き、季節の変化を感じられました。世界経済についてはイラン情勢がかなり緊迫しており、皆様の生活に関わるガソリン価格もほぼ200円台となっています。この傾向は数年にわたって続く可能性があります。この状況はコストプッシュ型インフレーションと言い、最終的にはスタグフレーションに至ることがあり得ます。第6次長期総合計画の策定では、そのような経済状況を織り込んだ議論が必要と考えます。

本日皆様にお話ししたいことは、皆様の経験や色々な考え方の中で選り抜かれてきた知恵のお話です。皆様の知恵を長期総合計画に含めたいと思いますので、忌憚のないご意見をよろしくお願ひします。皆様の言葉から長期総合計画が作り出されますので、よろしくお願ひいたします。

3 市長あいさつ

本日は、年度末のお忙しいところ、ご参集賜りまして、本当にありがとうございます。

前回の第1回目では、後期基本計画の策定において基本的な計画の考え方を共有する機会をいただきました。それを踏まえ、議論の筋道が明確になりました。

本日は、策定の基礎として、市の現状分析、人口ビジョンの整理、本市が今直面する課題の取りまとめをいたしました。課題については5年前にも整理しましたが、会長のおっしゃるとおり、世界情勢や角田市を取り巻く状況は日々変化を続けています。角田市には、少子高齢化や人口減少、それらに対応する福祉、防災まで色々なニーズがあります。ニーズに向き合い、取り組んでいくための後期計画期間の5年間となりますので、再度の分析を経てご議論をいただき、皆様の経験値に基づくお話を賜りたいと思います。皆様の議論が結果として計画の実効性につながると思っております。特に、人口ビジョンは単なる推計値の確認にとどまらず、市民一人一人が、生涯にわたって豊かさを実感できる地域社会をいかに維持・発展させるかという非常に困難な問題にも通じます。人口減少の解決策を示すことは難しいと思いますが、各施策を進めるための羅針盤として、新たに5年間の目標を設定する必要があります。分析結果について、皆様のご意見を踏まえ、精度の高い議論に昇華されると思いますので、よろしくお願ひします。未来を見据え、現状を厳しく見つめなおしたいと思ひます。皆様のご議論が計画策定を支え、計画策定により角田市の未来が作られると思ひますので、よろしくお願ひします。

市長インタビュー結果【資料「角田市プレゼンテーション用資料」】

市長インタビュー結果について市長から【資料「角田市プレゼンテーション用資料」】に基づき説明を行った。説明に対する質疑等はなかった。

4 報告

活動経過報告【資料「角田市第6次長期総合計画策定経過」】

活動経過報告について、事務局から【資料「角田市第6次長期総合計画策定経過」】に基づき、説明を行った。説明に対する質疑等はなかった。

5 議事

角田市長期総合計画審議会条例第5条第1項の規定に基づき、柳井会長が議長となり議事進行を行った。

- (1) 基礎調査の分析検証【資料1】
- (2) 市民意識調査、施策評価の分析検証【資料2-1、資料2-2】
- (3) 角田市将来人口シミュレーションについて【資料3】
- (4) 後期計画策定に向けた課題整理について【資料4、資料5】
 - (1)～(4)について、策定支援業務委託業者（七十七リサーチ&コンサルティング）より、【資料2-1】、【資料2-2】、【資料3】、【資料4】、に基づき、説明を行った。説明に対する質疑等はなかった。
 - (4)について、事務局から【資料5】に基づき、説明を行った。説明に対する質疑等はなかった。

〔黒須市長〕

市長のインタビューについて、4ページ、都市像に言及している箇所、「広報広聴活動による啓蒙推進」との表記を「啓発」に修正させていただきたい。

〔柳井会長〕

七十七リサーチ&コンサルティングから、新旧の市民の意識の変化と市民と市職員の意識のずれなど、実データに基づいて深掘りをし、課題が指摘された。優れた課題の指摘は優れた施策を生み出す一つの手順であるので、参考にさせていただきたい。この委員会で皆様自身が「市民力咲き誇る角田市」という目標を共有している。これは私たちの世界ではミッションと言う。ミッションがなければ、先程の分析に基づいても、委員会の意見の一致には至らない。皆様には、ミッション達成に向けて様々な立場からアドバイスをいただき、それらをビジョンとして整理し、施策の展開として長期総合計画の策定を行う。

〔高橋委員〕

先週の角田中学校卒業式の前日に開催された同窓会入会式で、角田中学校が楽しい場所だったことをお話した。今は体育館となった場所に、かつて西校庭があり、そこで大相撲の興行が3回行われ、2回目の巡業では、横綱の羽黒山と照国の取組があり、照国が一瞬で羽黒山を払いのけ、突き出したということが印象に残っている。このように角田は面白い場所だったことをお伝えしたい。

〔荒木委員〕

課題と現状について、今の課題を逆手にとって利用し、角田市らしい施策の展開が重要と思った。そこで注目したことは、住み続けたい理由として家賃が手ごろであることである。前回と今回の結果の変化はわずかだが、大幅な居住支援により、定住者を増やせると思った。これまでは産業誘致が人口を増やすという考え方だったが、角田は周辺市町村から就労者が働きに来るまちであり、他の市町村とは異なる「住むメリット」を提供できると思う。

〔遠藤委員〕

私が経営する施設は横倉地区に立地し、周りに空き家が多い。先程のグラフで示された急激な人口減少の状況から、絶対に人を増やなければいけない状況であると思う。家賃が安価であることはとても大きな魅力であるものの、角田のメイン通りはシャッターが閉まり、寂しい状況である。全国には起業したい若者が多くいることから、家賃の安さなどをアピールし、定住人口の増加施策が必要と考える。

〔神田委員〕

私は子ども子育て会議の委員も兼務しているが、人口減少が角田市にとって課題と感じる。昨年の出生数は推計で70人ほどと、赤ちゃんがいないのであれば、人口減少は当然の状況である。色々な施策を子ども子育て会議や市で実施しているが、このまちから人が離れないことが重要と思う。就学で角田を離れたとしても、角田に戻ってきて就職し、ここで生まれてよかったと思えるまちづくりが必要であると思う。

〔齋藤委員〕

農業の観点からお話する。角田市の土地の2/3を森林・田園が占めることから、田園の景観が角田市の印象を良くすると考える。田園の景観の向上には除草が基本であり、私たちも含め、今後も草刈りを進めたいと思う。耕作放棄地は、若者が自主的に草刈りをしており、このような取り組みを増やしたいと思う。

〔柳井会長〕

若手の活躍も重要な要素であると感じる。

〔佐々木委員〕

七十七リサーチ&コンサルティングで抽出した課題として、地域資源を活用した観光振興が挙げられた。市で示した課題には、観光振興がほとんど言及されておらず、今後は観光振興にも踏み込むべきと考える。

〔関委員〕

出生率向上は難しく、角田市の内部環境を活かし、高い昼夜間比率を活用し、定住人口の増加につなげるべきと思う。市民と市職員のギャップは施策の実施の参考になることから、この情報も共有すると良い。

〔柳井会長〕

科学と産業というところで、JAXAでの取り組みは何かあるか。

〔関委員〕

来年度、官民共創推進系開発センターを立ち上げる。色々な企業が参加しているが、大手企業は自らの拠点を角田市以外に設置している。一方で、スタートアップ企業を対象に、角田市に拠点を設置、そこで試験を実施することで、角田の産業振興を目指し、大学の研究室とも連携できれば良いと思う。

〔戸田委員〕

水田は米の価格の上昇も一因として、大規模なコメ農家に集積されている一方で、畑はほとんど集約されていない。畑の所有者はほとんどが営農者ではないことから持て余し、「ただでも良いから引き取ってほしい」という希望が多い。しかし、畑を引き取って活用する人がいない。工業も大事だが、角田の名産品を山元町のいちごのように作り出し、工業と農業両方の推進を考え、畑を集積する施策を実施し、新規就農者を増やしたい。優良農地ではない場合の土地利用についても、土地の転用や開発に関して、特定河川法や盛土規制法など非常に開発に対する規制が厳しい。市だけでは対処の難しい問題だが、市でも事業者を応援し、開発許可がとれるよう応援できると良い。

〔中橋委員〕

出生率低下により子どもたちが減り、こども園の経営が厳しいことが話題に上がる。角田市では保育料が無料であり、子育て世代には魅力的である。他の市町村から角田市に引っ越す方もおり、物価高の中での保育料無料は家計に優しく、それを決め手に角田が選ばれた印象を受けることから、子育て支援により、若い人が角田に移住してくると感じる。

〔松橋委員〕

角田市の誘致企業の立場から、コロナ禍で企業間連携ができなかった。年1回開催される角田市主催の誘致企業の会にも参加し、角田市から情報提供を受けているものの、企業からの情報提供は乏しく、企業同士の連携不足を感じる。環境保全や地域貢献などを目的としたエコフォーラムという団体があり、こちらの活動を来期から再開する。日幸電気、宮城製粉、ホーチキ、Astemoと当社の5社しか参加していないが、これらの取り組みを活かしながら、企業同士で横の連携を進め、角田市に地域貢献したい。今後も角田市と企業間連携などを相談したいと思う。

〔黒須市長〕

エコフォーラムなどを活用した企業間連携が実現すれば、本当に良い変化が生まれると思う。それらをつなぐ役目は我々角田市も担う。つながりが生まれると、どんどん変化が広がる。我々に企業間連携の情報を提供いただければ、支援したい。

〔柳井会長〕

JAXAも加わっていただけると良い。

〔安部委員〕

角田市を盛り上げたいと思うが、色々な人から意見が出されても、私一人では手に負えない。市として行政区長同士の情報交換の場を設けてほしい。

〔柳井会長〕

そのような指摘があると、市としても施策に展開しやすい。

[砂金委員]

枝野の8区あるうちの第2行政区長だが、住民がどんなことを希望しているのか、若い方と年配の方でギャップが非常に目立つ。出席者も限られる。3月には行政区の祭りや来年度に向けた見直しに入るが、住民がどんな意識や希望を持っているか考えていく。

[黒須市長]

先日、区長向け研修会を実施し、各課題の共有と解決、地域自慢大会のような発表を実施している。良い取り組みは横展開できるようにする。地区計画の中では、若い方々に色々な取り組みを任せる試みを導入している地区もある。好事例の共有に向け、担当課を中心に取り組む。

[柳井会長]

若者は我々と言葉も文法も違い、一緒に何かしようと思うと彼らの言葉のマスターも重要になる。

[小野（孝）委員]

市民と市の職員の差について、市民が欲張りなのか、職員が予算などを考慮し、現在の施策の状況が妥当ととらえたのかと考えた。少子化は簡単には止められないが、角田市の職員の中にも未婚の方がいる。若い職員が角田で子育てをしたくなる施策を実施できればありがたい。

[小野（陽）委員]

私は商工会女性部の代表だが、昨日の理事会の折、市役所が話題になった。用事があり訪問したにも関わらず、パソコンから目を離さないことがあり、もう少し職員の方々に笑顔があっても良いと思った。

夫が角田の病院から名取の病院に転院した。半年間夫が服用している薬を確認したところ、薬剤師から「長期的な服用は健康に重大な影響を及ぼす恐れがある」と告げられた。地元の薬局でも、お薬の副作用やリスクについて、もう少し丁寧なご説明をいただけるようになると嬉しい。

〔立花委員〕

私は音楽関係の仕事をしており、年1回大きなコンサートを開催している。20年前には子ども合唱団は100人いたが、昨年は5人しかいない。市内の学校などに呼び掛けたが、保護者の送迎やコロナ禍の影響などで集まらない。今後の音楽活動がどうなるのかが心配である。息子夫婦が去年の9月に仙台市から移住して、角田の人口増加に寄与した。もっと多くの皆様が角田に移住してもらえると嬉しい。

〔柳井会長〕

文化芸術はシビックプライドにつながる。

〔平山委員〕

子育てをしている親として、世代ごとに異なるニーズを満たすことが重要と考える。まちづくりの課題について市民が取り組めれば良いと思う。

〔渡邊委員〕

スポーツによるまちづくりは、市民や市職員の方々の満足度は高いが重要度が低い。角田にはスポーツ団体が多く存在し、スポーツ協会や協会傘下のスポーツ少年団、スポーツ推進委員会、体育館の運営をしている地域振興公社、フクシエンタープライズ、スポコムかくだなどがある。そのような団体と、角田市のスポーツ関連の各課により、スポネットかくだという組織を結成した。専門チームを立ち上げ、部活動の地域移行や乳幼児対策など色々な取り組みが始まっており、これは他のまちでは見られない。スポーツの重要度をより高く感じてもらえると良い。

〔荒井委員〕

角田市では農業や工業など安定した産業基盤を持っており、頼もしさを感じた。一方、大学職員として高校生や大学生など若者と触れ合うことからその視点から述べさせていただくが、若い世代がこれからどんなまちで暮らしていくか、どんな生き方をするかという価値観が定まる大事な時期だと思う。若者の興味関心は変化することから、全てに迎合することは難しいが、若者が楽しい思いができるよう、教養、娯楽、観光などへの向き合い方や、賑わいなど形がないものも含めて、未来をどう考えるかが重要である。

〔森委員〕

1点目は、就業者の流入率が流出率を超えていること。人口の問題は関心が高いが、中位推計くらいで維持するためには、定住人口の増加が必要であり、このことは明るい話題である。就業者として働きに来る人口を定住人口に取り込めるかが正念場と思う。定住人口が施策により増えていけば、総合計画の評価でも前向きなエネルギーとなる。重点項目として、就業者に色々なインセンティブを与え、定住人口につなげる取り組みをぜひやってほしい。

2点目として福祉の立場から、75歳以上人口の増加はここ10年ほど続いてピークアウトし、今度は団塊ジュニア世代が増加する見込みである。75歳以上人口の生活課題は実は顕在化していない。75歳の方は元気だが、年齢を重ね、配偶者が亡くなると生活課題が顕在化する。この辺りは重い腰を挙げて事業化していかないと、高齢者が地域で安心して暮らすことが難しくなる。「支え合いのセーフティーネット」が必要だが、中山間地域では互助・共助だけでは限界を迎えている。これを踏まえ、地域包括ケアシステムを構築し、支え合いを後期計画の5年で実感してもらえることが必要である。若い世代の定住に向け、生活支援型サービスを事業化して稼げる仕組みの構築も一つの方法だが、この実現に向け、行政では中間支援組織の支援も必要である。若い世代の雇用として、生活支援の担い手が不足する中で、色々な稼ぎ方を法人化により作り出すことも可能と考える。このような話題を提供できると、中山間地域にとって明るい話題になる。

3点目、指標設定が後期に向けて必要である。前期計画の評価において、指標設定が実態に合わないことが各部会で指摘された。例えば、資料のまちづくりの課題では、課題ごとの取り組みが取り上げられたが、項目に沿う形で結びつくアウトプットとアウトカムを設定して数字で管理することが重要であり、構築から取り扱い件数まで確認できる指標を設定すると、策定後の計画の進捗を確認できる。

〔黒須市長〕

皆様の知見を我々の中で醸成して具体的な施策に落とし込み、市民の皆様にお示しするなかで、お持ちの知見を発揮できる場を設け、その場で議論や反省を含めながらできれば良い。それを前提に、これからの審議会に臨んでいただきたい。

〔安藤副会長〕

結婚を機に角田に住み、楽しく子育てをすることができた。「オーケストラと歌おう子ども合唱団」では子どもたちと一緒に家族でステージに立つことができ、良い思い出となっている。地域の皆様に子育てしていただいたという実感がある。

人口減少の課題には、短期的な視点と長期的な視点の両方が必要だと感じている。介護を必要とする高齢者は更に増える一方で、生産年齢人口は激減する。そのような局面をどのように乗り越え、持続可能なシステムにしていくかが重要である。すべての仕組みをこれまで通りの方法で維持していくことは難しいと感じている。

角田市の地域医療を維持継続するうえで、今最も必要なのは人材確保である。すべての専門職をはじめ、多くの職種で人材が不足しているが、特に看護師が集まらない。全国的に見ても宮城県は看護師数が少なく、さらに仙南地域は有数の看護師不足地域である。いかに人材を確保していくかが当面の課題であり、行政や市民の理解と協力が求められる。同様に、農業や商業など他の分野における課題についても具体的に知り、どのような支援が行えるのかを模索したい。

そのような中、医療・福祉分野でも外国人材が増えている。新宿区では成人式に参加する若者の2人に1人が外国人であり、角田でも多くの外国人が活躍している。私の企業でもさまざまな国から人材を雇用し、住まいや言葉のサポートなどを行っている。角田市でも以前から日本語教室を実施しており、今後もさまざまな取り組みや支援が必要と感じている。

〔柳井会長〕

東北地域活性化センターから先日、外国人就労者についてのレポートが発表され、外国から来た人は会社の中で人間関係が完結しており、地域とのふれあいが少ないことが問題となっている。それがお互いに誤解を生むことになり、子どもと地域の人とのふれあいが少ないことから、子どもが孤立しがちである。お互いに勘違いしていることがあるので、誤解を解きほぐす仕組みを独自の「角田モデル」として確立、その後に色々な人を受け入れることで、取り組みの応援や国際化も進むと考える。

本日はそのようなミッションを踏まえながら、ご意見を頂戴したが、ビジョンもあるので、メゾッドである基本計画に展開していき、実行可能な計画に仕上げていきたい。

(5) その他

後期基本計画策定に係る長期総合計画審議会スケジュールについて、事務局より、【資料6】に基づき、説明を行った。説明に対する質疑等はなかった。

〔木村企画デジタル課長〕

先程のスケジュールに補足したい。次回の審議会までに期間が空くが、この間に令和7年度に角田市が取り組んだ事業の評価期間となる。審議会委員の皆様のうち、2/3の方々には評価委員としても携わっていただく。計画策定には評価も必要であることから、評価委員になっていない皆様にも評価の様子をお見せする機会を作りたい。3月から8月にお声がけすると思うが、その際はよろしく申し上げます。

6 閉会